

## LPガスCP速報(2020年2月積)

### 1. 2月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **505**  $\text{ドル}$  (前月比-60  $\text{ドル}$ )

ブタン **545**  $\text{ドル}$  (前月比-45  $\text{ドル}$ )

#### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が年初のイラン緊張による急騰から反落、LPガス需給は中国、インド、インドネシアの堅調な需要がある一方で、米国の濃霧の影響が解消し輸出が再開され、緩和感。中国が春節を迎え需要も一服、極東CFR市況は第4週プロパンは530  $\text{ドル}$  から480  $\text{ドル}$  に軟化した。ブタンは原油急落もあり575  $\text{ドル}$  から520  $\text{ドル}$  どころに大幅な下げとなった。

全米プロパン在庫は、輸出が増加したものの需要は暖冬で低水準にとどまり減少は続いているが、前年同期を38%上回り過去5年平均を突き抜けた(グラフ②)。米モンベルビュープロパンスポット価格は、原油市況に連れ安、前月比40  $\text{ドル}$  下げの220  $\text{ドル}$  どころ(グラフ①)。

フレート市況は中東積み船舶需給タイト化で上昇。IMO対策(スクラバー搭載修繕含む)、パナマ運河渋滞、メキシコ湾の濃霧なども要因となり、第4週には80  $\text{ドル}$  に達した。

ナフサは原油価格に追随、サウジ石油施設攻撃以来堅調に推移しており、月間平均は555  $\text{ドル}$ 、前月比15  $\text{ドル}$  の軟化。

バンカーオイルは、C重油は反騰、シンガポールIFO380は月間平均で前月比38  $\text{ドル}$  高の373  $\text{ドル}$  どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は48  $\text{ドル}$  続騰の676  $\text{ドル}$  どころ、IMO対策もありC重油との格差は304  $\text{ドル}$  に広がった。

2月CPは前年同月比プロパン65  $\text{ドル}$ 、ブタン75  $\text{ドル}$  高。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算では、前月に比べプロパン11、ブタン8ポイントそれぞれ低下、前年同月比ではプロパン横這い、ブタン1ポイント高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	65.5	66.1	73.7	80.0	71.3
CP先物指標：P	535	510	465	485	499
CP先物指標：B	565	545	505	525	535

#### ② 原油市況等

WTI市況の推移をみると、1月は波乱の幕開け。トランプ大統領の指示でイラン革命防衛隊のソレイマニ司令官が爆殺され、イランハメネイ師が報復を宣言、イラクの米軍基地がミサイル攻撃されるなど6日には昨年4月以来の63.27  $\text{ドル}$  まで上昇した。米・イラン情勢の緊張が緩和するとともに市況は軟化、IEAが2020年前半の供給超過を報告するなど需給緩和感が出るなか、中国の新型コロナウイルスの感染拡大で世界経済減速、エネルギー需要減退懸念からWTIは月末53  $\text{ドル}$  台に値を沈めた。

一方、米国内原油生産量は1,300万b/dの過去最高を更新、製油稼働率が低迷し原油在庫は増加、需要が伸び悩むガソリン在庫は増加が続き過去最高水準に積み上がった。米国の原油輸出は300万b/d超の高水準が続いたのに対し輸入量は減少、第4週は再び原油・石油製品ネットで輸出国となった。米石油リグ稼働数は2週連続で増加したが、直前で前年同期を186基下回る676基、2017年4月以来の水準。なお、カナダの石油リグ稼働数は急増し前年同期を上回る154基となった。CFTC発表の大口投機玉の買越残高は21日時点では521千枚、前月末から34万枚減少。米株価が最高値を更新したものの原油市況の急落で手仕舞い売りも。

○1月積みアラビアン・ライト(1月1~29日の想定)は68.50  $\text{ドル}$  (前月比-0.09  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン 561.63  $\text{ドル}/\text{トン}$  ブタン 553.93  $\text{ドル}/\text{トン}$

AL比 プロパン 89.92% ブタン 98.39%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

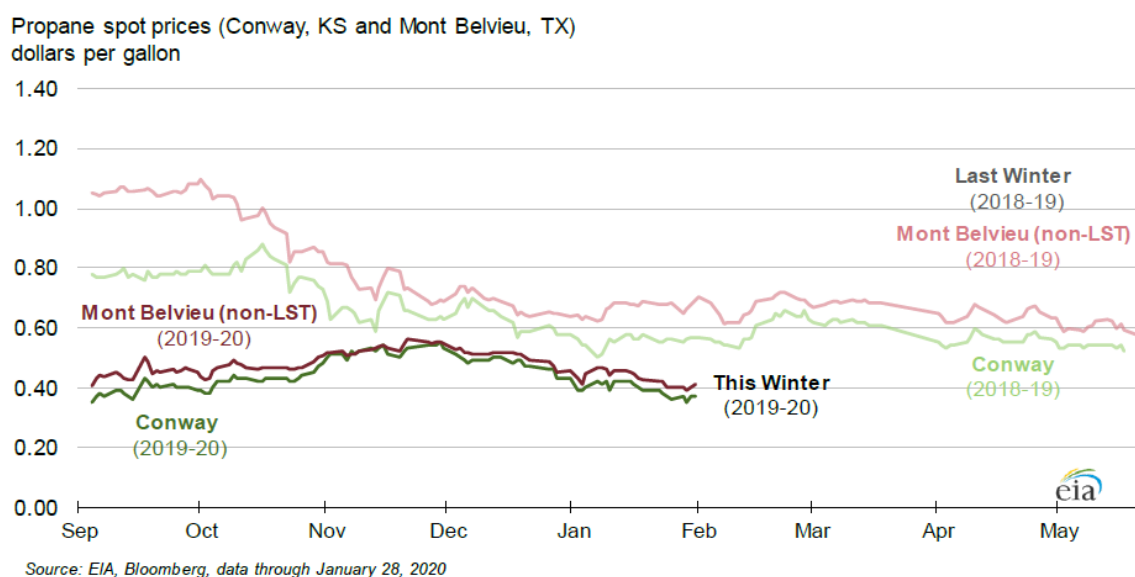
## 2. 2020年2月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	T T S	P円建CP	B円建CP	MB合成P	P前月比	B前月比	合成P前月比
①20日締め	110.43	66,100	69,700	60,530	+3,900	+5,300	+1,800
②末日締め	110.40	59,100	62,700	51,900	+3,700	+5,100	+1,100

\* T T S平均について、①が12月21日～1月20日、②1月1～30日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①がCP75%、MB25%、②がCP70%、MB30%で算定。①は中東・北米フレートを含むCFRコストを②はFOB（北米経費込み）コストを表示。

なお、上記MBは1月28日までの価格を基にE I Nで試算（213ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ①米国プロパンスポット価格推移



### ②全米プロパン在庫

